

協議会での検討目的・ゴール

資料2

【目的】

- ・網走市において「教育の質 & 持続可能な学校・地域」を両立させるため、将来的な網走市の学校のあり方について、市民の声を反映しながら、地域・学校・行政で協議すること

【ゴール】

- ・将来的な網走市の学校のあり方（規模・配置など）を整理した「網走市立小中学校適正規模・適正配置基本計画（案）」としてまとめる

規模（施設数）

配置（通学区域等）

施設（改修・増築・新設）

学校制度
（義務教育学校・小中一貫校）

学校のあり方

計画策定までの流れ

令和7(2025)年12月

「網走市小中学校適正規模・適正配置に関する基本的考え方」の策定

令和8(2026)年6月～令和9(2027)年3月
網走市学校再編検討協議会での協議

市民説明会
アンケート
調査

令和9(2027)年度(予定)

「網走市小中学校適正規模・適正配置基本計画」の策定

- 基本的理念
- 計画の目的
- 適正規模・適正配置
- その他(手段、手法、時期)など

規模・配置の適正化はなぜ必要か

A. 小規模校・分散(現状維持)

○ メリット

- ・ 通学距離が短く通いやすい
- ・ 一人ひとりにきめ細かな指導が可能
- ・ 地域コミュニティとのつながりが密接
- ・ 異年齢交流や地域行事との連動がしやすい

× デメリット

- ・ 多様な交流・学び合いの機会が減少／人間関係の固定化
- ・ 複式学級・クラス替え不可
- ・ 部活動・集団行事の制約の可能性
- ・ 免許外指導が発生しやすく、教科担任制への対応が困難
- ・ 児童生徒1人あたりの維持運営費が膨大

B. 規模・配置の適正化(統合・再編)

○ メリット

- ・ 多様な考えに触れる集団規模(標準12～18学級)を確保
- ・ 規模の偏りを解消し、教育条件の不均衡を是正
- ・ 教職員配置の充実(免許外指導の解消・教科担任制への対応)
- ・ 施設更新・長寿命化と一体で効率的に整備可能
- ・ まちづくりや、他の公共施設等との複合化・共用化なども検討可能

× デメリット

- ・ 通学距離・通学時間が長くなる児童生徒がいる
- ・ スクールバス等の交通手段確保・運行コストが必要
- ・ 地域コミュニティとのつながりが希薄化するおそれ
- ・ 統合に伴う合意形成・環境変化への子どもの負担

⇔地理的条件により統合困難な場合、小規模校のメリットを最大限生かす方策の検討も必要
⇔ただし網走市では、現状維持は困難(施設の老朽化:今後 30年で約337億円と試算)

規模・配置の適正化を考える 4つの観点

① 規模 — 集団規模の確保

多様な考えに触れる集団規模(標準 12～18学級)

- ・ 規模の偏りをなくして、教育条件の不均衡を解消
- ・ 教職員配置の充実(免許外指導の解消、教科担任制への対応)

② 配置 — 通学条件・バランス

通学条件を確保し、配置のバランスをとる

- ・ 通学距離の目安は小学校 4km・中学校 6km以内、通学時間はおおむね1時間以内
- ・ スクールバス等多様な交通手段で遠距離通学の負担を緩和
- ・ 児童生徒が安全に通いやすい場所への配置
- ・ 通学区域の見直し・分校形式・学校選択制等の柔軟な学校配置の検討

③ 施設 — ハード面の工夫

地域コミュニティの核と老朽化対策を一体で検討

- ・ 施設老朽化のピークに合わせた適切な長寿命化
- ・ 学習内容や学習形態に応じた施設設備の充実を図る
- ・ まちづくりや、他の公共施設等との複合化・共用化など施設整備の検討

④ 学校制度 — ソフト面の工夫

制度の選択肢を活かし、活力ある学校づくりを推進

- ・ 小中一貫教育(義務教育学校など)で一定規模を確保し、9年間連続したカリキュラムを実現
- ・ 教育課程特例校制度等で特色あるカリキュラム(ふるさと教育、英語教育など)を導入
- ・ コミュニティ・スクール等を活用した地域とともにある学校づくり

【参考】小中一貫教育とは？

- 小中一貫教育には、義務教育学校と小中一貫型小・中学校がある

令和8年5月現在

義務教育学校 【道内30市町村：40校】

すべて施設一体
型

- ・新たな学校種（一つの学校）
→一人の校長、一つの教職員組織

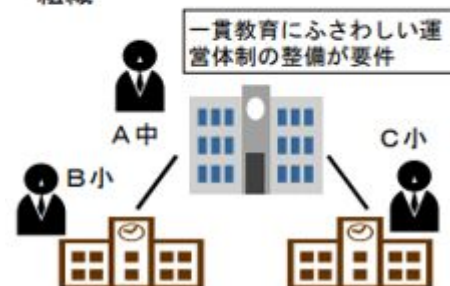


小中一貫型小・中学校

【道内38市町村：62中学校区（中62校 小85校）】

施設隣接型、施設分離型がほとんど（施設一体型は 6中学校区のみ）

- ・組織上独立した小学校及び中学校が一貫した教育を施す形態
→それぞれの学校に校長、教職員組織



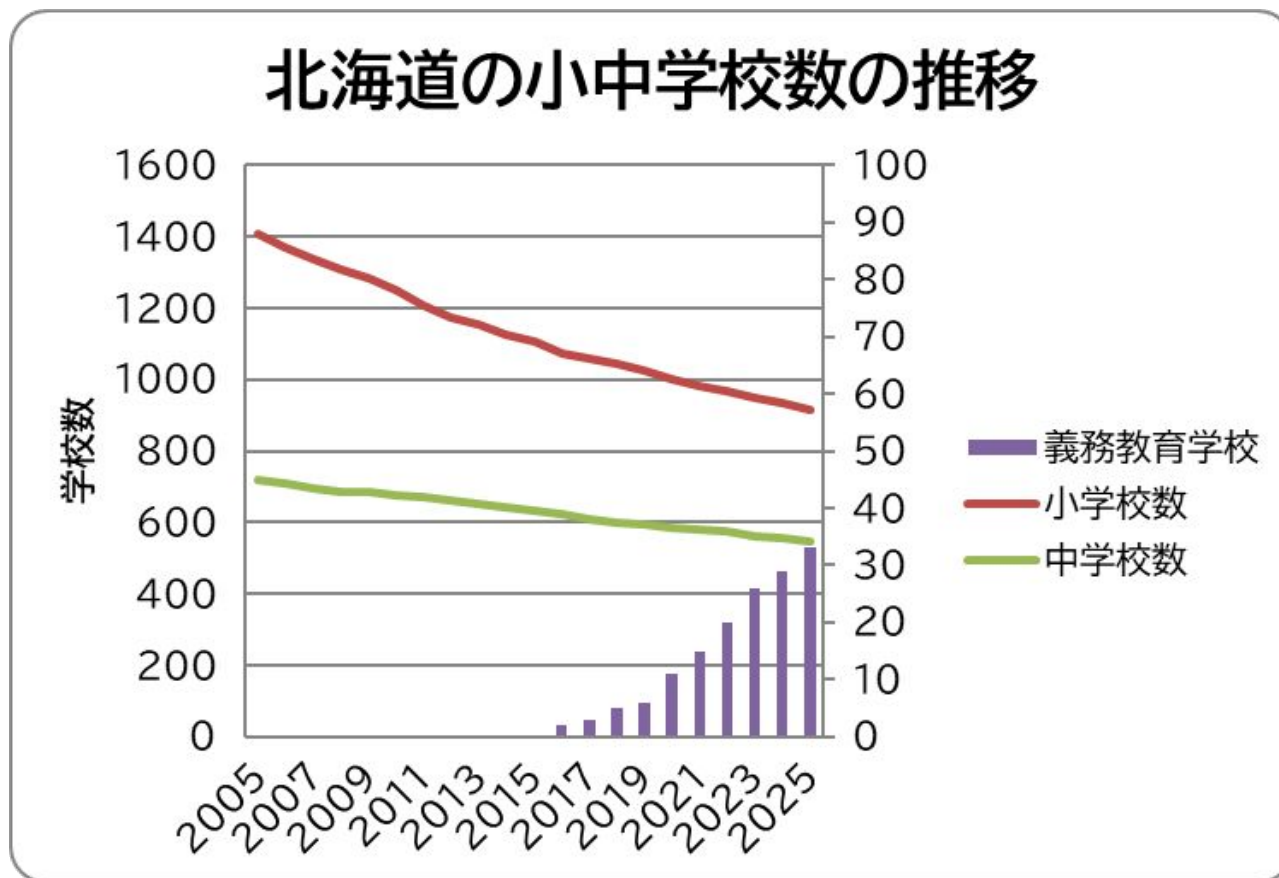
小中一貫教育導入により期待される効果

- ①一貫性のある教育体制の構築
- ②成長に合わせた質の高い教育の提供
- ③地域の教育力の向上
- ④学校のマネジメントの効率化

小中一貫教育導入に向けた課題

- ①子供の教育面（リーダー育成機会など）
- ②教職員のマネジメント面（小中合同）
- ③施設面（どこまで効率化？ 体格差など）

【参考】学校規模・配置の見直し(統合・再編)の背景

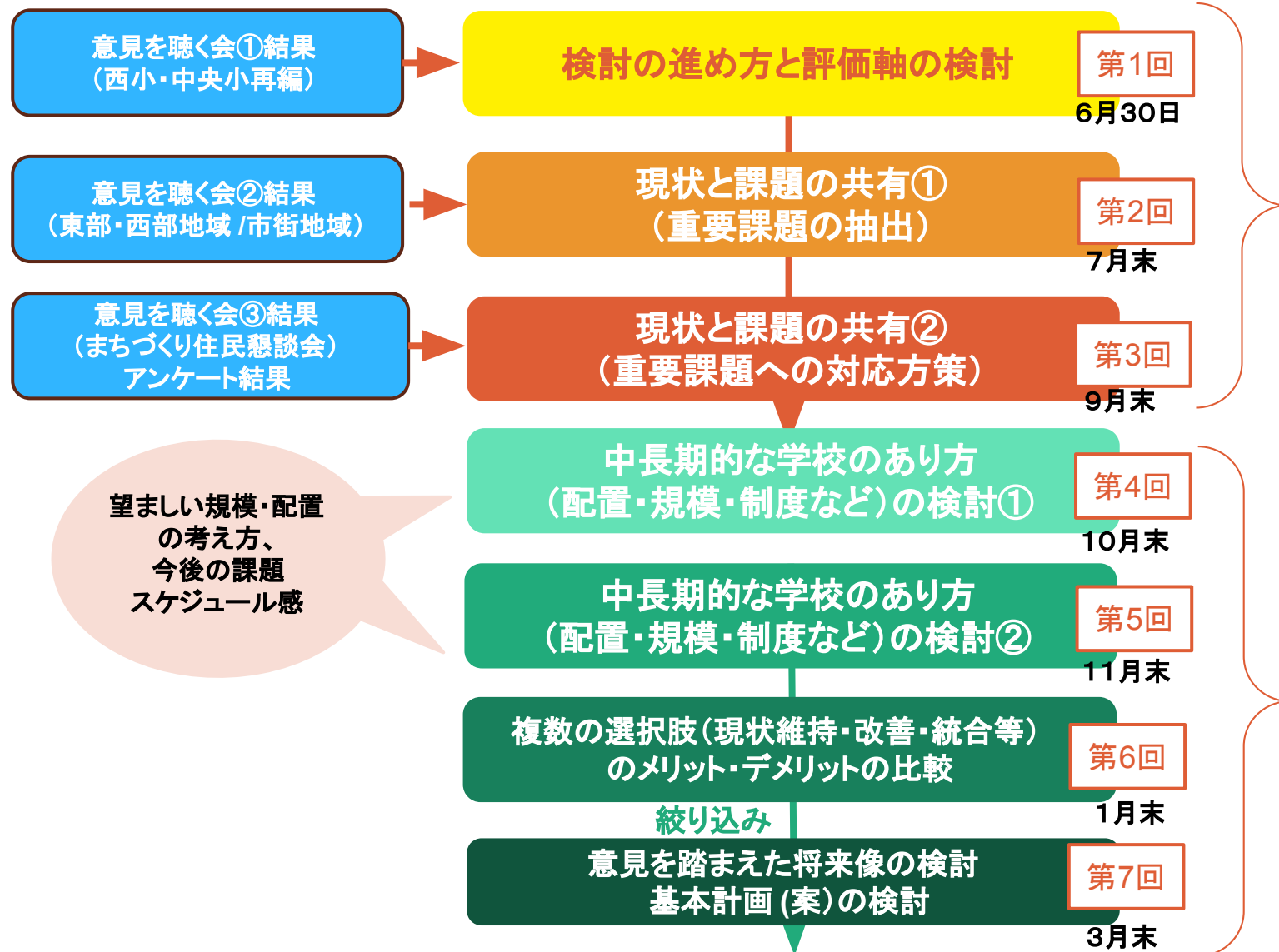


1. 小学校の減少が顕著 : 20年間で約35%減少(約3分の1が消滅)
2. 中学校も減少傾向 : 20年間で約24%減少
3. 義務教育学校の増加 : 2016年の制度開始以降、着実に増加中(小中一貫校の普及)

【参考】網走市の小中一貫教育の取組状況

校区	小→中	取組の軸
第一中【南・市街地】	網走小 → 第一中	情報共有＋授業改善
第二中【北・市街地】	中央・西 → 第二中	研究・研修中心
第三中【新・市街地】	潮見・南 → 第三中	第一中同様の総合連携型
第四中【東部エリア】	東・白鳥台 → 第四中	ICT＋小小連携
第五中【西部エリア】	西が丘 → 第五中	カリキュラム接続
呼人中	呼人 → 呼人中	小中一体＋広域交流

協議会の流れ



パブリックコメント 4月～